

差別のない明るいまちを
エイズってなに？

が引き起こされます。エイズは通常、HIVに感染してから十年程度で発病しますが、最近では、投薬により発病が抑えられるようになってきています。

HIVは、主に体液（血液、精液、膿液、母乳）が粘膜や皮膚の傷口から侵入することにより感染します。このため感染経路は限られています。また、HIVの感染力は弱く、普段の生活で感染することはありません。従って、HIVは次のようなことでは感染しません。

- ☆せきやくしゃみや
- ☆トイレの便座
- ☆お風呂やプール
- ☆握手や抱擁
- ☆蚊やダニ
- ☆食器の共用

◆「エイズパニック」

一九八六年（昭和六十一年）、フイリピンから働きに来ていた女性が来日前のHIV検査で陽性結果が出たことが実名で報道されました。マスコミが女性の働いていた店やその客の男性を探そうとして大さわぎになって、その男性が村八分になったり、その町の人というだけで他地域での宿泊を断られたりするなどの事態が起こりました。

◆「エイズ」とは
エイズ（AIDS）は、日本語では後天性免疫不全症候群ともいい、ヒト免疫不全ウイルス（HIV）に感染しておこる病気のことです。
感染すると免疫力が低下し、弱い病原体によっても重い感染症

翌年には、神戸市と高知市で、相次いで日本人女性のエイズ患者の存在が報道されました。これにより不安になった人たちがエイズの電話相談に電話したり、保健所のHIV検査に殺到したりしました。

「エイズは恐ろしい病気」という誤ったイメージがマスコミであおられ、エイズを恐れるあまり、HIV感染者やエイズ患者に対する偏見と差別が強まりこのような事態になったのでした。

◆HIV感染者やエイズ患者の現状

現在のHIV感染者は性的接触によるものが大半を占めていますが、日本で初期に感染者と確認された人のほとんどは治療のため使用した輸入の非加熱血液製剤で感染した血友病患者でした。このような「HIV被害」（薬害エイズ）により約千五百人が感染し、そのうち五百九十二人（二〇〇六年九月現在）が死亡しています。

厚生労働省の調べでは、二〇〇七年のわが国のHIV感染者数は初めて千人を超え、エイズ患者との合計も五年連続で過去最多を更新しています。

徳島県でも、一九九六年からの六年間は患者が一人でしたが、二〇〇二年以降は毎年一―三人の感染者・患者が報告されています。

ます。

◆感染症患者に対する人権問題

日本でエイズ患者が確認された時、間違ったイメージを植えつけてしまうような報道等により、多くの患者が人権侵害を受けてきました。具体的には、医療現場における診療拒否や無断検診、就職拒否や職場解雇、アパートへの入居拒否・立ち退き要求、公衆浴場への入場拒否など日常生活のさまざまな場面で人権問題となって現れました。

エイズ以外にハンセン病、結核、腸管出血性大腸菌O157などの感染症においても正しい認識が不十分なことから憶測や思い込みにより、患者やその関係者が差別されるような人権問題が起こっています。

私たちは、このような差別や偏見の実態から学び、感染症の患者や家族の人権が侵害されない社会にしていかなければなりません。それぞれの感染症に対する正しい知識を持ち、私たちの中にある偏見や誤った知識を見直し、冷静に行動することが大切です。

参考文献

- 「あわ人権学習ハンドブック」
- 徳島県教育委員会発行
- 「じんけん」
- 徳島県高等学校人権教育研究会編・発行

人権の詩

ちがいをどうすれば？

岩川直樹

人と人

の

あいだには

いろんなちがいがあ

人は

そのちがいを

不幸にしてしまうことも

ある

そのちがいを

豊かなものにできることも

ある

私たちが

何をするとき

ちがいは

不幸になるんだろう

私たちが

何をすれば

ちがいを

豊かなものに

することができら

出典「人権の絵本②」
岩川直樹（文）・木原千春（絵）

大月書店発行